近畿大学泉州高等学校
校長　堀川　義博

令和７年度　近畿大学泉州高等学校　学校評価

1　めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに，近畿大学の教育の目的である，人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。

＊　育てたい生徒像　：他人を思いやれる心を有し，社会に有為な人材と認められる生徒

＊　目標とする学校像：自主・自立の精神のもと，教員・生徒がともに人間的に成長する場

このような観点から，あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。

2　中期的目標および実施項目

A　確かな学力の育成

近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成，自校理解教育，確かな学力）を踏まえ，以下の項目について改善する。

ア　英語検定,漢字検定,数学検定,GTEC,TOEIC などの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し，学年ごとの一斉受験機会を設定する。
　　上記項目に関しては，自己評価にて結果を分析し，次年度への目標設定とする。

イ　基礎学力アップの補習，国公立大学入試対策補習の導入により，生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。

ウ　理系クラスを少人数クラス展開とし，学力の向上をはかる。物理，生物，数学において能力別少人数クラスの設定を行う。

エ　図書館活動を活性化し，読書量の増加を目指す。

オ　大学受験にむけた合格サポート体制として、今年度よりデジタル教材（=「スタディサプリ」「スタディサプリ ENGLISH」）を導入。このデジタル教材は、「質の高い授業をいつでもどこでも視聴可能」・「学習データを活用し、一人ひとりに寄り添った指導が可能」であり、またパソコンだけではなくスマホでも学習できるので、登下校中のスクールバスの中でも活用できる。

カ　大学広報担当者による講演会を実施する。

キ　大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。

B　希望進路の実現

ア　近畿大学および国公立大学志願者（合格者・進学者）を増加させる。

イ　生徒の希望進路に対応した選択授業科目を設定し，細やかな指導を行って合格へつなげる。

ウ　私立大学文系学部志望者へも数学，理科の教科指導を行い，基礎学力を高める。

エ　大学オープンキャンパスへの参加，授業（英会話や実験）体験の機会等を増やし，志望動機を高める。

C　リーダーシップ，人間力を高める取り組み

ア　生徒会活動，クラブ活動を生徒主体に運営させていく。

イ　体育祭，文化祭，入学式，卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。

ウ　いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより，クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に 1 度，年間 3 回のアンケート調査を実施する。

エ　AED 講習を高校 2 年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校 1 年生，3 年生対象に実施し，生命，生活に対して確かな知識と意識を涵養する。

D　グローバル化への対応

ア　コロナ禍で中断していた希望者対象の 1 年間留学，3 ヶ月留学，2 週間語学研修（アメリカ・オレゴン州）を令和 5 年度より再開する。今後，さらに参加者が増加するように研修時期，研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。

イ　コロナ禍で中断していたハワイ修学旅行を令和 5 年度より再開し，語学体験、異文化理解・交流、社会に出る前の国際経験を身につける。

ウ　アの参加者および希望者に対して，近畿大学英語村特別プログラム受講を令和 5 年より再開する。

エ　アメリカ・オレゴン州のルーズベルト校との交流（交換留学）を令和 5 年度より再開する。

オ　オーストラリアのパースへの 10 日間の語学研修(一家族 1 名のホームステイ)を実施する予定である。

E　地域・保護者との連携，社会貢献

ア　文化祭を近隣住民へ開放し，バザーでの収益を被災地義捐金としている。

イ　税理士を招いての「税の講習会」の実施，２年生全員の「税の作文」の応募など，税務署の活動への協力を行っている。

ウ　保護者会向け講演会を実施している。

エ　保護者，生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入しているため，緊急時（災害など）の連絡を確実に取ることができる。また，一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため，保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。

F　健全な経営状況の維持

ア　生徒募集における定員確保(収益基盤の確保)

イ　安全な学習環境整備

ウ　将来への投資

【自己評価アンケートの結果分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析［令和８年２月実施分］	学校協議会からの意見

○保護者アンケート

※　前年度と、同じ項目にてアンケートを実施しました。

【34 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 80%以上の項目・数値の高い順】

①	学校の特色は，進路目標の実現である。	89.0%
②	生徒は，全体として校則をよく守っていると思う。	87.9%
③	学習評価（定期考査，提出物等）は，適切である。	87.5%
④	学校の行う進路（進学）説明会の内容・回数は適切である。	86.8%
⑤	学校では，生徒の個人情報がよく守られている。	86.1%
⑥	学校は基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。	85.4%
⑦	子どもは，学校行事に積極的に参加している。	85.4%
⑧	先生は，問題が起こればすぐに対応してくれる。	85.1%
⑨	保護者として，この学校に通わせて満足している。	84.0%
⑩	学校は，生徒の進路に関する情報を適切に提供している。	84.0%
⑪	学校の施設・設備は，丁寧に使われている。	84.0%
⑫	学校で，子どもの進路について先生が丁寧に指導してくれる。	82.9%
⑬	先生は，生徒の悩みや相談を聞いて，すぐに対応してくれる。	81.5%
⑭	学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。	81.1%
⑮	学校は，生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。	81.1%
⑯	さまざまな学校行事があり，活発である。	81.1%
⑰	校内や学校行事等での感染対策は適切である。	81.1%
⑱	子どもの心身の健康について，気軽に先生に相談できる。	80.4%

☆　前年度 16 項目から 2 項目の増加

☆　前年度 90%以上が 3 項目あったが、今年度は 0 項目

【34 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 70%未満の項目・数値の低い順】

①	地震・火災に備え，生徒に避難マニュアルが周知されている。	59.1%
②	学校は，保護者や地域の人たちと話す機会を多く持っている。	61.6%
③	子どもは,学校が提供するオンライン教育を活用し,力をつけている。	61.9%
④	子どもは，学校から保護者宛に出された文書を必ず渡している。	64.4%
⑤	学校の施設設備は，学習環境の面でほぼ満足できる。	66.9%

☆　前年度 8 項目から 3 項目の減少

［分析］

全 34 項目中、「(よく) あてはまる」が 80%以上の項目は 18 項目となり、前年度より 2 項目増加した。特に、「学校の特色は進路目標の実現である」「生徒は校則をよく守っている」「学習評価は適切である」「進路説明会の内容・回数は適切である」などが高い評価を得ており、本校の特色である進路指導や生徒指導、学習評価に対する保護者の信頼は引き続き高いことがうかがえる。また、教員の相談対応や学校全体への満足度も 80%を超えており、学校の教育活動全般について概ね肯定的に受け止められている。

一方で、90%以上の項目は前年度の 3 項目から 0 項目となり、全体的には評価がやや分散する結果となった。また、70%未満の項目は前年度の 8 項目から 5 項目へ減少し改善傾向が見られるものの、「避難マニュアルの周知」「保護者・地域との交流機会」「オンライン教育の活用」「家庭への文書伝達」「施設・設備への満足度」は依然として課題である。特に、防災に関する情報発信や家庭・地域との連携の充実、ICT を活用した学習支援については、今後も改善を図る必要がある。

○教職員アンケート

【40 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 70%以上の項目・数値の高い順】

①	生徒は，全体として校則をよく守っていると思う。	94.1%
②	生徒は，学校行事に積極的に参加している。	88.2%
③	生徒にわかりやすい授業を実践することができている。	82.4%
④	学校は，生徒に対して計画的に進路指導体制を整え，指導している。	79.4%
⑤	教育課程は，学習指導要領に沿っている。	73.5%
⑥	高大連携協定を結んだ大学と連携体制が整い，指導が行われている。	73.5%
⑦	生徒は，学校の生徒指導の方針について理解している。	73.5%
⑧	生徒指導において，家庭との連携ができている。	73.5%
⑨	いじめの実践把握に努め，いじめの早期発見に努めている。	73.5%
⑩	学校では，生徒の個人情報および教職員のプライバシーがよく守られている。	73.5%
⑪	校内や学校行事等での感染対策は適切である。	73.5%
⑫	学校は，生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。	70.6%
⑬	さまざまな学校行事があり，楽しい。	70.6%

☆　前年度 80%以上 9 項目から 70%以上 13 項目に下げました。

［分析］

教職員アンケートでは、評価基準を前年度の 80%以上から 70%以上へ変更した結果、70%以上の項目は 13 項目となった。

「生徒は校則をよく守っている」「生徒は学校行事に積極的に参加している」が高い評価となり、教職員も生徒の規範意識や学校生活への主体的な参加を高く評価している。また、「わかりやすい授業の実践」「計画的な進路指導体制」についても比較的高い評価となり、教育活動の中心となる授業改善や進路指導が一定の成果を上げていることがうかがえる。

一方で、多くの項目が 70%台前半にとどまっており、教職員自身は教育活動や学校運営について改善の余地があると認識している様子が見られる。特に、高大連携、家庭との連携、生徒理解、人権教育、いじめの早期発見などについては、組織的な取組を継続・充実させることが求められる。

［全体感］

保護者・教職員ともに、生徒の規範意識の高さや学校行事への積極的な参加、進路指導の充実について高く評価しており、本校の教育活動の強みとして共通して認識されている。また、進路実現を学校の特色として保護者から高い評価を得ていることは、本校の教育方針が着実に浸透していることを示している。

一方で、防災体制の周知、家庭・地域との連携、ICT を活用した学習、施設・設備などについては、保護者から改善を期待する声が見られた。また、教職員アンケートでは自己評価が保護者評価よりも慎重であり、学校運営や教育活動の質をさらに高めようとする意識がうかがえる。

今後は、本校の強みである進路指導、生徒指導、学校行事を維持・発展させるとともに、防災教育や情報発信、家庭・地域との連携、ICT 活用の充実を図り、保護者・地域からさらに信頼される学校づくりを進めていくことが重要である。

○保護者アンケートについて

保護者アンケートでは、学校の特色である進路指導や進路実現に対する評価が最も高く、生徒指導や学習評価についても高い評価を得ていることから、学校が教育目標に沿った取り組みを着実に進めていることがうかがえる。また、教職員の相談対応や学校全体への満足度も高く、保護者との信頼関係が概ね良好に築かれていることは評価できる。

一方で、防災に関する周知や地域・保護者との連携、ICT を活用した学習、施設設備に関する項目では改善を期待する声も見られた。特に、防災教育については、日頃の取組や避難マニュアルの周知状況を家庭にも分かりやすく発信するとともに、地域との連携を一層深めることが望まれる。また、ICT 活用についても、生徒の学習効果が保護者にも伝わるよう情報発信を工夫していただきたい。

○教職員アンケートについて

教職員アンケートでは、生徒の規範意識や学校行事への積極的な参加、授業改善や進路指導について比較的高い評価となっており、教育活動全体が安定して行われていることが確認できた。

一方で、教職員自身が学校運営や教育活動について改善の余地を認識していることは、学校をより良くしていこうとする前向きな姿勢の表れであり、今後も組織的な授業改善や生徒理解、家庭との連携、人権教育、いじめの未然防止などの取組を継続・充実させることを期待したい。

１，労働管理について

教職員が安心して教育活動に専念できるよう、勤務時間の適正な管理や業務の平準化、働き方改革を継続して進めることが重要である。業務改善や会議・校務の効率化を図り、教職員の負担軽減と健康保持に努めることで、教育の質の向上につながることを期待する。

２．教職員研修について

教育課題や社会の変化に対応するため、授業力向上や ICT 活用、生徒理解、人権教育、特別支援教育など、多様なテーマについて継続的な研修を実施していることは評価できる。今後も研修成果を校内で共有し、教職員全体の資質・能力向上につなげる取り組みを継続していただきたい。

３．財務状況および校舎改修工事について

限られた予算の中で教育環境の維持・改善に努めていることは評価できる。校舎改修工事については、安全確保を最優先とするとともに、生徒の学習活動への影響を最小限に抑えながら計画的に進めていただきたい。また、施設設備の充実については保護者からも改善を期待する声があることから、今後も計画的な整備に努められることを期待する。

【総括】

学校協議会としては、本校の特色である進路指導、生徒指導、学校行事への取組が保護者・教職員双方から高く評価されていることを評価する。今後は、これらの強みを維持・発展させるとともに、防災教育、ICT 活用、家庭・地域との連携、教育環境の整備など、改善が求められる課題についても継続的に取り組み、保護者や地域から一層信頼される学校づくりを推進されることを期待する。

7 年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
A 確かな学力の育成	（1） 英語検定，漢字検定，数学検定，GTEC，TOEIC などの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。	（1） 各種検定の実施計画・内容 3 検定の実施時期 （学年統一実施） ＊統一実施回以外は希望者受験 ①英語検定 高校 1 年次 9 月 高校 1 年次 2 月 高校 2 年次 1 月 ②漢字検定 高校 1 年次 6 月 高校 2 年次 10 月 ③数学検定 高校 1 年次 2 月 高校 2 年次 6，11，2 月 （2） 基礎学力定着度の指標として総合評価を行う。（英語検定，漢字検定，数学検定の取得級を得点化し合計する。）	（1） 令和 6 年度入学生の高校 2 年終了時点での取得級と割合 （令和 7 年度末集計，在籍者数 142 名） （ ）内は令和 5 年度→6 年度→7 年度の合格割合の変化を示す。 ①英語検定 目標　2 級取得 35% 準 1 級 0 名（0%→0%→0% ） 2 級　10 名（12.3%→14.0%→6.7%） 準 2 級 61 名（46.1%→46.4%→40.9%） 3 級　52 名（32.3%→35.9%→34.8%） ②漢字検定 目標　準 2 級以上 50% 2 級　3 名（ 5.3%→2.1%→6.0%） 準 2 級 42 名（47.3%→29.6%→36.9%） 3 級　89 名（85.5%→62.7%→84.6%） ③数学検定 目標　準 2 級以上 50% 準 1 級 0 名（0 %→0 %→ 0 %） 2 級 19 名（0 %→3.0%→ 13.4%） 準 2 級 87 名（23.2 %→33.8%→61.3%） （2） 令和 7 年度より 2 年終了時点での漢字検定，英語検定，数学検定の級毎の合格率および，3 検定の総合評価を分析し，対策を実施している。総合評価については，各検定合格級を以下のように得点化している。 英語検定 2 級；5 点 準 2 級；3 点 3 級；1 点 漢字検定 2 級；5 点 準 2 級；3 点 3 級；1 点 数学検定 準 1 級；5 点 2 級；3 点 準 2 級；1 点 総合評価（得点合計） 目標；総合得点 3 点以上の割合 60% （昨年度の割合 71.8%） 結果；102 名（64.2%） 11 点以上 14 名（0%→1.4%→8.9%） 9 点～10 点 8 名（1.4%→9.2%→5.0%） 5 点～8 点 46 名（12.7%→24.6%→28.9%） 2 点～4 点 59 名（53.5%→54.9%→37.1%） 0 点～1 点 32 名（32.4%→9.9%→20.1%）	（1） ①英語検定について（今後も努力継続が必要） 高校 2 年終了時までの英語検定 2 級合格率は 6.7%程度で，前年度を半減。目標である 35%からは大きな開きがある。また準 2 級以上で見ると約 48%と前年度を下回っている。2 級取得率の増加を目指すには、まず準 2 級の合格者を出すための努力がこれまで以上に必要である。また，1 次試験での不合格者にリスニングの低得点者が多いことから，授業その他の機会においてリスニング指導の機会を増やす必要がある。 ②漢字検定について（今後も努力継続が必要） 準 2 級以上を取得している生徒が約 43%にとどまっており、昨年からは大きく持ち直したが、50%取得を目指して継続した指導が必要である。検定の 1 週間前から対策学習を始めるというやり方ではなく、年間を通じた日々の地道な学習を行わなければならない。過去問を解くだけでなく、生徒個人が苦手を把握し、四字熟語、類義語、対義語といった分野別の対策に取り組ませることが肝要である。 ③数学検定について 準 2 級、2 級の合格者数が大幅に増加しており、目標達成に至った。合格者のほとんどが理系選択生徒であるので、文系選択生徒でも合格できるものを増やしたい。授業展開の中で検定の出題傾向に触れ，問題を解説するなど、検定の問題を扱う機会を多く持ち、対策を継続していきたい。また，準 1 級については試験範囲が数学Ⅲの内容が中心であるため高校 2 年終了時で受験させることは難しいが，早い段階で 2 級に合格した者は準 1 級にトライできるよう前向きに検討したい。2 級以上については，さらなる合格率向上を目指して頑張りたい。 （2） 総合評価の結果は，総合得点 3 点以上の生徒割合 60%という目標を昨年同様達成することができた。しかし昨年度までは年々上昇していたが、今年度は昨年度を大きく下回った。今後も各検定の自己評価を踏まえてそれぞれの合格率を上げるとともに，生徒各個人の総合得点を常に把握させ，対策へのモチベーションにするとともに，統一受験日以外の受験を勧める際の材料としていく必要がある。
B 進路希望の実現	1．国公立大学現役進学者 20% 2．近畿大学現役進学者 50% 3．その他の難関私大現役進学者 30%	近畿大学の準附属校として、高い学力・意識・行動力を持つ生徒を近畿大学に現役進学させるための近畿大学との連携行事参加、入試対策を含めた進路指導を行っている。同時に難関国公立大や地方国公立大を含む国公立大への進学者も増やすべく、共通テスト対策や二次対策の授業・模試・合宿などの機会を設け、公募推薦や総合型を含む受験情報の提供や対策などの進路指導を行っている。その中で学力の底上げを図り、すべての生徒が希望進路を実現するだけの力を身に着けられることを目指している。	令和 7 年度卒業生（令和 8 年度入試）現役進学先割合（卒業生数 142 名） （　）内は令和 6 年度卒業生→令和 7 年度卒業生の進学割合の変化を示す。 ＜目標＞ 1．国公立大学進学者 20%（8 名〔6%〕→7 名〔5%〕） ・和大 1、大教大 2、徳島大 1 など 2．近畿大学進学者 50%（52 名〔40%〕→54 名〔38%〕） ・理工学部 6、農学部 4、情報学部 1 など 3．その他の難関私大進学者 30%（12 名〔9%〕→14 名〔10%〕） ・ベネッセのＢライン（合格可能性 60%）偏差値が 55 以上の大学・学部を「難関大」と定義。 関西大 2、大阪医薬大 2、龍谷大 3，関西外国語大 3、大阪経済大 2、大阪工業大 1、大和大 1 など	和歌山大に 10 年連続で合格者を出すなど、和歌山大 1 名、大阪教育大 2 名、徳島大学 2 名、高知大 1 名、山口大 1 名など、国公立大学に一定の合格者 7 名が出たが、目標にはまだ遠く及んでいないので、今後さらに伸ばすべく指導に力を入れていく。近畿大学に関しては、進学しなかった者を含む「実合格率」において、令和 4 年度 30%台から、令和 5 年度 49%、令和 6 年度 47%、令和 7 年度 44%と推移し、「卒業生の 2 人に 1 人は近大に合格」と言えるように大きく近づいている。検定や学力面で 70%程度の生徒が特別推薦の基準を満たすようになれば近大進学者 50%の達成は可能であろう。その他の難関私大進学率は、近大進学率とのからみもあるが、生徒の学力底上げによって少しでも目標に近づきたい。

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
C　リーダーシップ，人間力を高める取り組み	（1） 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化	（1） ①入学式，卒業式，体育祭，文化祭，外国人留学生の歓送迎行事，オープンスクールなど各種行事における準備・運営 ②文化祭において生徒会チャリティーバザーを実施 ③ ②以外の義援金募金活動	（1） 目標；活動人数，活動数の増加 〔結果〕本年度の生徒スタッフは 45 名であった。 ① 例年、外国人語学研修生の歓迎会やお別れ会，体育祭，文化祭では準備や運営などを進んで行い，学校行事の活性化に寄与。オープンスクールなどの中学生向けの行事では，中学生，保護者の校内案内や交流，体験授業補助など大いに活躍。中学生，保護者に非常に良い評判をいただいている。 ② 売り上げを日本赤十字社に寄付した。 ③ 令和 7 年 10 月に能登半島地震義援金募金と令和 7 年 12 月に歳末募金を行った。	（1） 生徒スタッフの活動については，令和元年度より開始して 7 年目となる。令和 7 年度は生徒スタッフ 45 名（9.9%）で、昨年度に比べて大きく減少。目標であった 15%を越えることが出来なかった。（令和 4 年度 11.8%，令和 5 年度 12.1%，令和 6 年度 15.3%） オープンスクールでの生徒スタッフの活動は良い評価を得ている。自主的に学校行事に携わっていこうという意識をもつ生徒のことなので、今後ともスタッフの人数が増加するように、さらに活動の幅を広げることを目標に活動していきたい。
D　グローバル化への対応と取組	グローバル化への対応と取組を積極的に行う	（1） ア（令和 6 年度実績）： 2024 年 8 月 23 日 ～2025 年 6 月 9 日 長期留学 イ（令和 7 年度実績）： 2025 年 10 月 27 日 ～2025 年 11 月 1 日 ハワイ修学旅行 ウ（令和 6 年度実績）： 2024 年 7 月 9 日 ～2024 年 7 月 17 日 アメリカ・ルーズベルト高校生の受け入れ	(1) 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 〔結果〕 左記　アの 1 年間の長期留学 0 名 イの修学旅行 152 名 ウのルーズベルト高校生受入れ 0 名	（1） ア　長期留学は 6 名が説明会に出席。費用が高額であることと、日本での勉強に遅れをとることを懸念してか、参加希望者 0 名。 ※3 カ月留学：2 名以上参加で、1 名 370～410 万円 ※1 年留学　：1 名 820～860 万円 イ　研修内容は昨年度と同様で，特に 2 日目のパールハーバー戦艦ミズーリ記念館への訪問は生徒にとって「平和」について考える良いきっかけになった。国際交流の観点からは，ハワイの歴史に触れたり、現地の方との英語を用いた交流を含む行程があっても良いのではないか。また，各教科とも連携を取りながら，体系的な事前・事後指導を検討すべきである。 ウ　アメリカ・ルーズベルト高校生の受け入れはホストファミリー希望者 17 家庭で、受け入れ態勢は整っていたが、先方の参加希望者が集まらず催行中止。次年度に向けて、保護者・生徒への意識づけをしながら募集をしていく。
E　地域・保護者との連携，社会貢献	地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う	（2） ①文化祭の近隣住民の方への開放 ②税務署との活動に参加 ２学年全員が「税の作文」に応募	（2） 〔結果〕 ①については，本年も来場者があった。 ②については，岸和田税務署より税理士の方を招いて講演をしていただき，２学年全員が「税の作文」に応募した。	（2） 地域，地元税務署および警察署との協力関係は良好である。しかし，だんじり祭りをはじめとした学校周辺地域との交流は，コロナ禍を境に大きく減ってしまったきり，なかなか元のように再開できていない。だが，地域住民に開放している文化祭での生徒会チャリティーバザーで購入される方もあり，今後，地域との関わりを少しずつ増やしていきたい。周辺地域は少子高齢化が顕著である。本校として周辺地域に貢献できることを考えていきたい。
F　健全な経営状況の維持	健全な経営状況の維持を行う	（1） ア　生徒募集における定員確保(収入基盤の確保) イ　安全な学習環境整備 ウ　将来への投資	（1） 令和 6 年度在籍者数；435 名 令和 7 年度在籍者数；458 名　23 名増 校門に電磁ロック設置 令和 8 年度体育館エアコン設置へ準備 教員一人 1 台パソコン貸与 28 教室に WiFi、プロジェクター設置	1） 令和 6 年度在籍者数 435 名から令和 7 年度 458 名へと 23 名増加し、収入基盤の強化につながった。一方、令和 7 年度新入生は 162 名であったが、令和 8 年度は 145 名となり、募集状況は厳しさが見られる。今後は定員確保に向けて、学校の魅力発信や広報活動の充実、中学校・地域との連携強化など、生徒募集対策を一層推進する必要がある。 校門に電磁ロックを設置するとともに、モニター付きインターフォンを併用し、部外者や不審者の侵入防止など安全対策の強化を図った。 また、令和 8 年度の体育館空調設備設置に向けて準備を進めている。猛暑時における授業・学校行事・部活動の安全性と快適性を確保し、熱中症リスクの低減と教育活動の充実につなげていく。 教員一人 1 台のパソコン貸与に加え、28 教室へ Wi-Fi 及びプロジェクターを整備し、ICT 環境の充実を図った。これにより、校務の効率化や教職員の働き方改革を推進するとともに、ICT を活用した授業改善や学習意欲の向上など、教育の質の向上につなげていく。